

おぎわら モーニング

政治を、分かりやすく・身近に・楽しく読める！

Plain, Familiar, Pleasant with Politics!

第一号 2013年 6月7日 発行

発行 おぎわら隆宏後援会事務局
 電話 0467-61-1870
 FAX 0467-61-1871
 住所 〒248-0006 鎌倉市小町
 1-4-24 鎌倉起業プラザ3階

◆ CONTENTS ◆
 * 政党ってなに？
 * うさのすけの
 湘南青春物語
 * 至言探訪
 * ボランティア募集



おぎわら隆宏 昭和四十五年一月
 生、ドイツ・フランス・イギリス・アル
 ジェリア・日本の五カ国で育つ。立教英
 国学院卒、早稲田大学第一文学部卒、サ
 ラリーマン、衆議員秘書、横浜市会議員
 一期五年を務め、現在、民主党神奈川県
 第四区総支部長（横浜市栄区/鎌倉市逗
 子市/葉山町）として活動中！



政党ってなに？

考えてみれば、いったいなぜ、政党というものがあ
 るのでしょうか。政党があるから、一人一人の政治家が本
 当はそつすべきではないと思
 っている事でも、大御所・大幹部の言つ事に逆
 らえず、執行部で決まったことが予定調和で進
 められていく、企業・団体との癒着も断ち切れ
 ない、結局政党の存在そのものが、政界を汚し
 ているのではないかと考える方も少なくない
 のではないかと思います。

それでは、政党を無くしたら、どのような世
 界になるのでしょうか。

政党がなくなると、首相の選出に国民の意思
 が反映されにくくなる事態がまず予想されま
 す。日本の国政は議院内閣制ですから、議会在
 首相を選出しますが、この首相を選出するにあ
 たって、国民の意思を反映する形で選出するよ
 うに、総選挙で党首対決の構図を作って、あら
 かじめ国民に選んでもらう、というのが議院内
 閣制の母国イギリスの流儀です。魅力的な党首

を生み出せない政党は負けとなります。

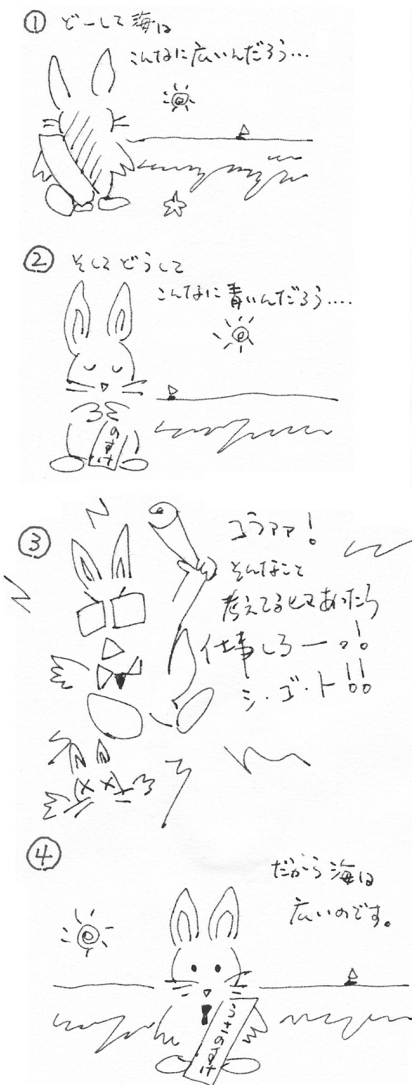
いかに、国民の意思を反映させるかに腐心す
 ることが重要であって、いかに政治家の思惑を
 実現させるかに腐心してはいけないのは言うま
 でもありません。

政党が無くなれば、極めて有力な議員が議
 会の過半数を掌握して首相誕生、ということにな
 るでしょうが、これは、政党の黎明でもありま
 す。リーダーを決めていく過程そのものが、政
 党の歴史なのかも知れません。この首相を、国
 民の投票によって直接選べば、ほぼ大統領制と
 なります（公選首長）。

ハイコオリティな民主主義を日本に

政党政治は、オールマイティでもなければ手
 放して完璧な制度というわけでもありません。
 政党はチームとして連帯責任を負いますから、
 選挙のたびに、いい政治家も落選することがあ
 りますし、反対に無能な政治家が当選すること

うさのすけの 湘南青春物語



by おぎわら隆宏

もありました。そして、バラ色の政治制度ではあ
 りません。しかし、大きな犠牲を生んだ世界大
 戦を経た国際社会は、一人の政治家やひとつの
 政党に権力を与えすぎて国家を翻弄させること
 があれば、それは国際社会をも危機に巻き込む
 恐れがあるということ十分に学習しました。

そのために、現在の国際社会は民主主義が広ま
 る中で、国民の意思をいかに社会に反映するか
 という努力を重ねているわけです。我が国も、
 その努力を続ける必要があります。

日本は、政党政治が弱体化した結果、軍部の
 台頭を許し、世界大戦に突入していった歴史が
 あります。この反省からも、政党政治は無く
 はならないのです。しかし、政党マネジメン
 トがまずいせいで、どんなにいい政治家を選
 挙しても、結果として良い方向に政治が進
 まないジレンマを多くの国民が感じているのも
 事実かと思えます。これからは、政党がいかに
 国民の思つところを汲みとって意思決定が出来
 るかが重要であり、政治家の政策自己実現より
 も、国民の人生の自己実現をいかに支える事が
 出来るかどうか、政党の存在意義に繋がって
 いくと私は思います。そして、とりもなおさず、
 それは、地方政治と国政との連動性にも関わる

話でもあります。

国と地方の制度は一八〇度違つ

議院内閣制の国政と違つて日本の地方政治は
 二元代表制（大統領制）です。地方議会でも会
 派が存在しますが、日本の地方議会は、政党政
 治が定着していると言えるのは、都道府県議
 会と大都市の市議会などで、実は、全国の八割の
 市町村議会は、会派制を採用していません。賛
 否は議員個人が自由に決めるといふことで、党
 議拘束もありません。政党もなく、会派も無く、
 議員個人の判断を尊重する形です。

同じく大統領制を布くアメリカ連邦議会には
 党議拘束はほぼ存在しません。政党の思惑より
 も議員個人の判断が大きく尊重されます。その
 ことで、直接選挙され絶大な民主的権威を持つ
 大統領の権力を抑制しています。

これが、公選首長制の一番大事なところで、
 大統領制の下での議会は、党議拘束が無い方が、
 首長に対する権力抑制効果を発揮しやすいた
 めに、党議拘束がありません。

しかし、日本の地方議会は国政の議院内閣制
 を混同して会派拘束（党議拘束）を極めて律儀
 に守ろうとしています。本来、党議拘束は、議

院内閣制の手法なのです。したがって、現在の地方議会の多くでは、地方議会の権能が十分に發揮出来ない状況が見受けられるわけです。

その逆もしかりです。

国政では、首長を直接選挙出来ませんが、それは、議院内閣制を採用しているからで、さらに、党議拘束があるのも、与党がチームとして責任を負い内閣を形成して国政にあたっているからです。

日本の政治の分かりにくさは、地方と国政の政治体制が一八〇度違っていることも一つ大きな原因だと考えています。

アメリカでは議員個人が尊重される議会ですが、しかしそれでも、政党が消えてなくなることもありませんし、何度も政権交代があつても、共和党と民主党の二大政党が長く維持されています。これはなぜでしょうか。

ひとつには、米国は民主党共和党ともに党員数が膨大で日本とは比較にならないくらい国民政党として定着していることがあるでしょう。そのような状況であれば、政治家もお互いそれと政党を変えることが出来なくなります。したがって政党も衰弱することなく、長く維持されるということに繋がります。

ひるがえって、制度は公選首長制で同じだけれども、日本の地方が大きく違っているのは、米国の州や大都市の首長は所属政党を明確にしますが、日本の場合、首長は皆そろって無所属にしていることです。これは、異なる政党会派で構成される議会過半数の勢力を味方とするために、首長は無所属であるほうが都合良いいためにそうなります。

今までの国政は、永田町も霞が関も、中央集権的に「地方は従えるもの」と考えていたと思います。これが高度成長期後の我が国の第一の踏石です。国政は地方を従えるのではなく、地方の自己実現を支えることに大きな意義があります。

そして、それと同じように、国民・住民の自己実現を支えるための国政であつて、政治家の

自己実現のために国政があるのではないことを強く再認識しなければ、国民による国民のための政治はいつまでたっても日本に確立できないと考えなければなりません。

政党政治には掟がある

ある海外の市議に教わりました。それは、政治家の心得でもあります。

「政治家は、自分の信念に基づいて判断するが、その自分の思いよりも政党の思いを優先しなければならぬ。それが政党政治の前提でもある。そしてさらに重要なのは、政党の思いよりも、国民の思いを優先しなければならない、ということだ」

日本の政治家がけして忘れてはならない至言とも思っています。

政治家が私利私欲に走らないように政党があり、政党が党利党略に走らないように、国民の審判である選挙がある。民主主義の要諦です。

政党は、国民の財産

政党は、長い年月を経て、水をやり、こやしをあてて育てる、国民と政治家の間の信頼に拠つて立つ「暮らしを支える国民的装置」であるべきです。何よりもまず政治家自身が、不断の努力によって、政党政治の健全な育成に心血を注がなければなりません。

そして、政党政治は政治家のものではなく、国民のものであるということを経験した政治家自身がわかまなければならない。政治家の都合による離合集散によって、生まれ残り消えたりを繰り返しては、政党が国民の財産になりえないからです。政党は、暮らしを良くするための国民の財産であり、また、そのように国民から信頼を寄せられる政党を作ろう、政治家は努力すべきです。

政党は、政治家のものではなく、国民のもの

世界の多くの民主国家は、政権交代可能な政党政治を保持しています。それが国際標準であるとも言えます。我が国に、国際標準にかなう

確かな政党政治を確立することが、将来世代への何よりの贈り物であると思います。

——いこも、ちこでも、無我無心。

(荻原隆宏)

～至言探訪～

「道徳に棲守(せいしゆ)する者は、一時に寂寞(せきばく)たり。権勢に依阿(いあ)する者は、万古に淒涼(せいりょう)たり。達人は物外の物を観、身後の身を思ふ。寧ろ一時の寂寞を受くるも、万古の淒涼を取ることをなせ。」
—— 菜根譚

人生で、真理を住みかとして守り抜く人は、一時不遇で寂しい境遇に陥ることがあるかも知れない。しかし、権勢におもねる人は、永遠にさびしい思いをする。達人は世俗を超えて物を観て、死後のことを考える。だから、たとえいつとき寂しい思いをするとしても真理を守り抜くべきで、強い者におもねって永遠にさびしい思いをするようなことはしてはいけない。

(参考：岩波文庫 今井宇三郎訳注「菜根譚」)

* * *

真理とは何かということは、あまりに難しい探求ではありませんが、この探求抜きに、本当の幸せも手に入ることはないだろうとも思えます。政治も、傾向と対策だけにまみれることなく、常に真理真実に手が届いている状況でなければならないと思います。(荻原)

おぎわ二たより

紫陽花の美しい季節になりました。おぎわらモーニング第一号をお届けすることができました。今後とも紙面を改良して参ります。次号もまた、お手にとって頂ければ幸いです。(事務局)

ボランティアメンバーを募集しています！

おぎわら隆宏の活動をサポートしていただける方を募集しています！勉強会の開催や、街頭活動まで、幅広く政治活動を体験してみませんか？詳しくは下記まで、お気軽にお問い合わせください！

おぎわら隆宏事務所
〒248-0006 鎌倉市小町 1-4-24 鎌倉起業プラザ3階
TEL : 0467-61-1870 FAX : 0467-61-1871

✉ ogi@ogiwara-takahiro.com

街頭活動を、一緒にやってみませんか？

簡単な事務作業のお手伝いをしていませんか？

政治の知識を、増やしてみませんか？

